

2025年4月25日

国内初 ハイブリッド方式による 太陽光パネルカバーガラスの板ガラス向けリサイクルの実用化開始

AGC（AGC株式会社、本社：東京、社長：平井良典）は、太陽光パネルカバーガラスの板ガラス向けリサイクルにおいて、国内初となるハイブリッド方式での実用化を開始しました。今回の取り組みでは、加熱ナイフによる分離方式に、株式会社浜田（本社：大阪府高槻市、以下 浜田社）の高圧水噴射技術を組み合わせることで、板ガラス向けの水平リサイクル^{*1}を実現しました。



加熱ナイフ方式により分離した
太陽光パネルのカバーガラス表面



加熱ナイフ方式により分離したカバーガラスから
浜田社の高圧水噴射技術で残存接着部材を除去

太陽光パネルの耐用年数は20～30年とされており、2030年代後半には国内で年間数十万トンにのぼる廃棄が見込まれています。このような状況下で、太陽光パネルカバーガラスの水平リサイクルは重要な課題となっています。しかし、板ガラス向けのカレット（ガラス端材）は品質要件が厳しく、これまでに実用性が確認されたカバーガラスの分離方式は、加熱処理方式^{*2}に限られていました。適用が困難とされていたもののうち、加熱ナイフ方式については、ガラス表面の残存接着部材が問題となっていました。

今回、加熱ナイフ方式に浜田社の高圧水噴射技術を組み合わせ、残存する接着部材を完全に除去することで、精製されたカレットの品質基準が板ガラス原料として活用可能であると確認されました。

このカレット約10トンを原料の一部として、2025年4月にAGC横浜テクニカルセンターにおいて建築用型板ガラスを製造しました。これにより、すでに実用化されている加熱処理方式に加えて、新たな太陽光パネルカバーガラスの水平リサイクル方式が確立されました。今後は、より多くの太陽光パネルカバーガラスの板ガラス向けリサイクルを推進し、2030年までに年間数千トンのリサイクル体制を構築します。

AGCグループの中期経営計画 **AGC plus-2026** では、当グループが提供する3つの社会的価値を示しています。このうち“Blue Planet”では、資源の有効利用を重要機会ととらえ、ガラスの水平リサイクル拡大を通じて持続可能な地球環境の実現に貢献します。

【本件に関するお問い合わせ先】

AGC株式会社 広報・IR部

TEL: 03-3218-5603 [お問い合わせフォーム](#)

〈注釈〉

*1 使用済み製品を原料として、再び同じ種類の製品を製造するリサイクル方法。これにより、資源の長期循環が可能となります。

*2 太陽光パネルからカバーガラスを熱により分離する技術。

【関連リリース】

[太陽光パネルカバーガラスのリサイクル実証試験に成功 一板ガラス原料向けとして国内初](#)（2023年11月7日発表）

[太陽光パネルカバーガラスのリサイクル実証試験に成功 一フロート板ガラス原料として国内初](#)（2024年3月25日発表）

【本件に関するお問い合わせ先】

AGC 株式会社 広報・IR 部

TEL: 03-3218-5603 [お問い合わせフォーム](#)